

記者発表資料
平成20年9月17日

報道機関各位

国土交通省中部地方整備局
富士砂防事務所

お知らせ

1. 件名

富士山源頭域調査工事における施設の効果について

2. 概要

富士山源頭部調査工事は、大沢川源頭部大沢川崩れの拡大を防ぐための工法を開発することを目的として工事を行っています。

当現場は、落石・土石流の恐れ、急勾配で狭あいな上、巨礫が多数存在する厳しい条件下で、作業員の安全を確保しながら工事を実施しています。

今回、効果を発揮した施設は、落石防護柵というもので、斜面崩落に伴い発生した落石等を斜面上に張ったネットで受け止めるものです。

当該現場ではこの落石防護柵により、約300m³の崩落土砂を受け止め、下部にあるワークステージや退避壕を損傷・倒壊等から防いだものです。

3. 記者発表資料配付先

富士宮市記者クラブ、富士市記者クラブ

4. 問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所 建設監督官 岩本

TEL 0544-27-5387

富士山源頭域調査工事 位置図



富士山大沢崩れ源頭域調査工事における施設効果



《平成10年度完成写真》



《平成20年8月現在》

- ①施設名 : 落石防護柵（平成10年度施工）
- ②目的 : 源頭域右岸斜面からの落石を防止する施設。
斜面下には、作業基地となるワークステージと、緊急避難場所となる退避壕があるが、これらの施設を落石から守ることを目的とする。
- ③施設効果 : 斜面からの崩落土砂 約300m³（W30m×H10m×D1m）を捕捉し、下部施設の損傷を防いだ。

